

## 大子町立黒沢中学校における 「総合的な学習の時間」の実践に関する考察

呉 迪\*

### 1. はじめに

平成10年の学習指導要領の改訂において、中学校の教育課程に「総合的な学習の時間」が創設された。これまで総則において、趣旨及びねらいなどについて定められてきたが、平成20年3月に新たに改訂された中学校学習指導要領のなかで、総則から取り出され、第4章として章立てされた。総合的な学習の時間で目指す子どもの姿が下記のように描かれている。

*横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。<sup>1)</sup>*

いままでの文言と比べ、新たに「探究的な学習」や「協同的」が加えられているこの目標は、国が示す大きな方向性と全体の目標であり、これを踏まえたうえで、各学校は創意工夫ある取り組みを行い、自らの総合的な学習の時間の目標と内容を定める、ということになっている<sup>2)</sup>。「自ら考え、主体的に判断し行動する生徒の育成～自ら学び心豊かにたくましく～」を教育目標として掲げている<sup>3)</sup>大子町立黒沢中学校は、2011年度の「総合的な学習の時間」の内容を、

学年別で地域調査や職場体験学習などのテーマを設定した<sup>4)</sup>。本稿は、黒沢中学校第1学年の地域調査をテーマとする「総合的な学習の時間」の授業への参加<sup>5)</sup>を通して、授業の取り組みに関する検討および学外の関わり方という二つの側面から、課題を提起することを主な目的とした。

### 2. 黒沢中学校第1学年の取り組み及び そこから見えた課題

前述した新たな総合的な学習の時間の目標として強調されている「探究的な学習」について、文部科学省は『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』において、その学習のプロセスを①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現、の4段階に分けて説明している<sup>6)</sup>。このプロセスに即してみれば、黒沢中学校第1学年の実際の取り組みを次頁の表1にまとめることができる。

筆者は主に2学期から、【③整理・分析】段階における発表資料づくりや【④まとめ・表現】段階における「秋香祭」での学習成果の発表などに参加し、生徒と一緒に活動を行ってきたため、具体的な様子を把握できた。また、【②情報の収集】段階の活動についても、たとえば、「店」グループのメンバーが行った関係者に対する質問紙調査や、実地及びインターネットを通じた調査の実施など、どのような情報をどう収集したのかを、授業中での担当教員や生徒との交流の中で把握することができた。

一方で、【①課題の設定】の段階において、な

\* 筑波大学大学院博士後期課程3年

表1 黒沢中学校第1学年における「総合的な学習の時間」の学習プロセス

探究的な学習プロセス	黒沢中学校の取り組み
【①課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ	中心テーマは「黒沢地区を紹介しよう」であり、生徒12人は「山」、「川」、「店」、「神社」の4グループに分けられた。
【②情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする	実地調査またはインターネットなどを通じて、各グループは必要な資料収集を夏休みをかけて行った。
【③整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりして思考する	各グループは収集した資料を他地域と比較したり、図表を作ったりし、整理や分析を行い、学習成果を発表資料としてまとめた。「秋香祭」において、グループ別でパワーポイントを用いたステージ発表と、模造紙による展示発表が行われた。
【④まとめ・表現】気持ちや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する	

(資料「総合的な学習の時間」秋香祭までの予定)及び授業中担当教員や生徒との会話内容をもとに筆者作成)

この4つのテーマになったのか、グループのメンバーはどのように決められたのかなどについて、そのプロセスに参加していなかったため、十分に把握できなかった。しかし担当教員の話によると、以前の先輩の発表資料などを参考にしたため、テーマも内容も構成もほとんど一緒である、という<sup>7)</sup>。筆者は蓄積された学習成果を参考することに反対しないが、パターン化して型にはまった学習になってしまう危険性も考えられるため、子どもの自主性・主体性を目指す「探究的な学習」の一環として、課題設定の段階から工夫する必要があると考える。

さらに、「中学校学習指導要領」の中で設定されていないが、一年間の授業を終え、感想や反省など教師や生徒による授業に対する評価や、これまでの作業を通して見えてきた課題の整理、学習成果の地域への還元など、振り返りの作業が必要ではないかと思う。

### 3. 学外の関わり方に関する提言

また、今回の活動を通して、学外の関わり方の検討は一つの大きな課題として残されている。今回の場合は、発表資料の作り方や発表のしかたなどに対する助言のほかに、生徒とのコミュニケーションが大いに期待されたが、筆者の見限りの限り、その結果は十分とは言えない。

一つの大きな原因として、学外参加者の変動などによる信頼関係構築の難しさが考えられる。総合的な学習の時間は基本的に週1回で50分の授業であり、そして大学から2時間半の移動が必要となることから、生徒と一緒に活動でき

る時間が限られている。さらに、筆者を含め大学から不定期的に参加する人がおり、メンバーの入れ替わりが多いことによって、生徒とのコミュニケーションを十分に取れず、信頼関係の構築に影響を与えた。長期的かつ継続的に参加することが望ましいように思う。

今回のように、すべての活動に参加することが難しい場合は、参加できない人と情報や問題点の共有を図るため、事前の打ち合わせや事後の反省会を開催し、きちんとフィードバックを行い、記録を残すことが一つの対応策として考えられよう。また、子どもとのコミュニケーションについて、授業の時間に限ることなく、必要に応じて、他の場や機会を設けることも考えられる。

### 4. おわりに

各教科に関する知識の習得とは異なり、「総合的な学習の時間」は、学習の目標や評価方法は必ずしも明確ではない。教師にとっても生徒にとっても学外の参加者にとっても、「総合的な学習の時間」を通して、何を学ぶ／身につけることができるのか、について理解することが必要である。

今回の活動では、筆者が参加したのは2回のみであり、本稿は限られた資料や情報に基づいた執筆となるため、やや主観的な記述が多かった。本稿で提起した課題をもとに、今後も引き続き大子町における「総合的な学習の時間」の実践に関わっていきたい。

## 注

<sup>1)</sup> 『新中学校学習指導要領』。「文部科学省ホームページ」2011年3月25日最終閲覧。

([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/sougou.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/sougou.htm))

<sup>2)</sup> 同上、『新中学校学習指導要領』第4章「総合的な学習の時間」第2「各学校において定める目標及び内容」。

<sup>3)</sup> 「大子町立黒沢中学校ホームページ」2012年3月25日最終閲覧。

(<http://www.daigo.ed.jp/kurosawa-cyu/>)

<sup>4)</sup> 同上、「日誌 黒沢中学校だより」(2011年)の掲載記事より。「総合的な学習の時間」の内容は学年別で、第1学年は「地区調査」、第2学年は「職場体験学習」をテーマにした。

<sup>5)</sup> 筆者が参加したのは2011年10月12日及び2011年11月2日の2回の授業であった。

<sup>6)</sup> 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』。「文部科学省ホームページ」2012年3月25日最終閲覧。

([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/chukaisetsu/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chukaisetsu/index.htm))

<sup>7)</sup> 2011年10月12日、担当教員の話による。